

EPBOND 510

エポキシ接着パテ - GT N096 に使用可能

製品概要

EPBOND 510 は低密度のチキソトロピー性エポキシ接着パテです。GT N096 方式の断熱箱の固定と荷重の均等な分散に使用でき、低温環境でも良好な柔軟性と接着力を維持します。

主な特長

- ・ チキソトロピー性パテで垂れにくく、垂直面にも施工可能 ・ 低密度
- ・ 優れた耐圧縮クリープ性 ・ 混合 ・ 施工が容易

物理的特性

特性	試験方法	EPBOND510 主剤	EPBOND510 硬化剤
混合比(質量比)		100	30
混合比(体積比)		100	30
許容誤差(最大)		硬化剤の ±7%	
外観	目視	チキソトロピー性ペースト	チキソトロピー性ペースト
色	目視	灰色	濃青色
混合前の密度、25° C (g/cm3)	ASTMD4052	約1.05	約1.05
硬化後の密度、25° C (g/cm3)	ASTMD4052	約1.05	
粘度、25° C (Pa.s)		700	600
可使時間(500g)、25° C(分)	ゲルタイマー	約90分	
保存期間		12か月	

加工・使用手順

EPBOND 510 エポキシ接着パテは、最大圧力 200Bar 以下の自動計量・混合装置で押出施工できます。圧力が高すぎると、中空マイクロスフェアが破損するおそれがあります。ポンプで円滑に圧送できるよう、主剤と硬化剤は 20 ° C を超える温度で施工することを推奨します。

圧縮強さ

温度		° C	-170	-100	-45	+23	+40
圧縮強さ	ISO 604: 2002	MPa	180	170	130	88	70
圧縮弾性率		MPa	7000	6000	5200	4700	4100

硬化条件:40 ° C /7 日

温度による粘度の変化

温度 (° C)	10	15	20	25	30	35
主剤の粘度 (pa. s)	1580	1120	880	700	620	570
硬化剤の粘度 (pa. s)	1550	1040	850	600	540	490

硬化条件

EPBOND 510 はオープンタイム終了後に速やかに強度を発現し、高い硬化度に達します。23 ° C で 21 日、または 40 ° C で 7 日硬化させると、完全に硬化したものとみなせます。

硬化速度と強度の発現を評価するには、各温度で硬化時間の経過に伴うエポキシ接着パテの硬度の上昇を測定します。

ショアD硬度								
時間(日)	5° C	10° C	15° C	20° C	23° C	30° C	35° C	40° C
1	20	44	55	66	73	75	77	77
2	42	66	72	73	75	76	77	78
3	66	70	72	75	76	77	78	79
4	68	72	73	76	76	78	78	79
5	70	73	74	77	77	79	79	79
6	72	74	75	78	77	79	80	80
7	75	75	76	78	78	79	80	80
8	75	76	77	78	78	80	80	80
9	76	77	78	78	79	80	80	80
10	77	78	78	78	79	80	80	80
11	77	78	79	79	79	80	80	80
12	77	79	79	79	80	80	80	80
13	77	79	79	79	80	80	80	80
14	78	79	79	79	80	80	80	80
15	78	79	79	79	80	80	80	80

荷姿

EPBOND510 主剤	EPBOND510 硬化剤
190kg	190kg

2024年8月EPBOND 510 エポキシ接着パテ 2 /3ページ

保管条件

未開封の EPBOND 510 を乾燥した環境で保管した場合、保存期間は 12 か月です。主剤の推奨保管温度は 12-35 °C、硬化剤は 5-35 °C です。10 °C 未満で長期間保管すると、EPBOND 510 の主剤成分が結晶化することがあります。結晶化した場合は使用を中止してください。

取扱い上の注意

施工中は皮膚との接触を避け、必要に応じて保護衣、マスク、保護手袋を着用し、できるだけ換気の良い環境で作業してください。詳細は材料安全データシートを参照してください。

注意事項

上記のデータはすべて特定の条件下で測定したものです。実際の加工方法やその他の条件の影響を考慮し、使用前に必要な性能試験を行って、用途に適合することを確認してください。当社は製品が当社の品質基準を満たすことを保証します。

2024年8月EPBOND 510 エポキシ接着パテ 3 /3ページ